



みらか  
ホールディングス

# みらかホールディングス株式会社 2015年度(2016年3月期) 第2四半期決算説明会

2015年 11月 4日



## 2015年度 上期 業績概要(1)

売上高は過去最高を更新するも減益

(単位:億円)

	14年度上期 実績	15年度上期 実績	対前年同期 増減(率)
<b>売上高</b>	1,022.2	1,059.8	+37.6 +3.7%
臨床検査薬	209.0	227.3	+18.3 +8.7%
受託臨床検査	670.8	690.3	+19.5 +2.9%
ヘルスケア関連	142.4	142.3	-0.1 -0.1%
<b>営業利益</b>	(*) 145.2 14.2%	(*) 137.7 13.0%	-7.5 -5.1%
臨床検査薬	50.6 24.2%	58.2 25.6%	+7.6 +14.9%
受託臨床検査	77.5 11.6%	63.8 9.2%	-13.7 -17.7%
ヘルスケア関連	16.5 11.6%	14.8 10.4%	-1.7 -10.3%
<b>EBITDA (**)</b>	217.8 21.3%	212.0 20.0%	-5.8 -2.7%

(\*) セグメント利益調整額(14年度上期: 0.5億円、15年度上期: 0.9億円)を含んでおります。

(\*\*) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

※為替レート 14年度上期: 1USD=103.03JPY, 1EURO=138.90JPY; 15年度上期: 1USD=121.81JPY, 1EURO=135.08JPY

売上高 : IVD及びCLTの海外事業伸長により増収(為替影響を含む)

営業利益 : CLTの利益減をIVDの利益増が補えず減益

## 2015年度 上期 業績概要(2)

税金等調整前当期純利益を除く各利益は前年実績、業績予想ともに下回る

(単位: 億円)

	14年度上期 実績	15年度上期 実績	対前年同期 増減(率)	上期業績予想	対業績予想 増減(率)
売上高	1,022.2	1,059.8	+37.6 +3.7%	1,053.0	+6.8 +0.6%
営業利益	145.2 14.2%	137.7 13.0%	-7.5 -5.1%	140.0 13.3%	-2.3 -1.6%
営業外損益	-0.3	-8.9	-8.6		
経常利益	144.9 14.2%	128.8 12.2%	-16.1 -11.1%	133.5 12.7%	-4.7 -3.5%
特別損益	-9.8	18.5	+28.3		
税金等調整前 当期純利益	135.1 13.2%	147.2 13.9%	+12.2 +9.0%		
法人税等	53.4	82.0	+28.6		
当期純利益	81.6 8.0%	65.3 6.2%	-16.4 -20.1%	74.5 7.1%	-9.2 -12.4%

### 【経常利益、当期純利益の対前年変動要因】

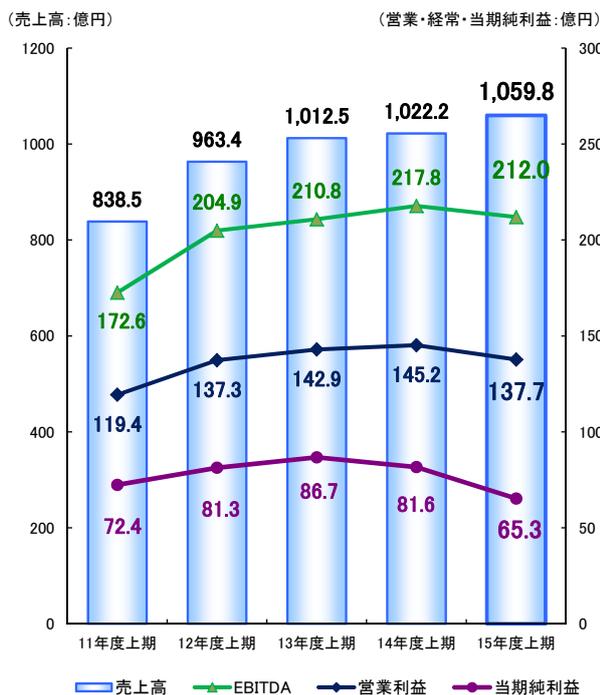
- 営業外損益
  - ・持分法による投資損失(主にBMGL)
- 特別損益 / 法人税
  - ・MLSに対する訴訟に関連した税金費用を保守的に見積り計上(実質影響額 約16億円)
  - ・14年度上期は事業構造改善費用(FRE:約6.4億円, MLS:約1.4億円)を計上

2

## 上期業績推移

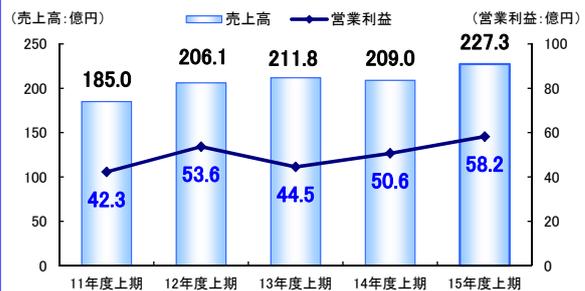
連結

### 売上高は過去最高を更新



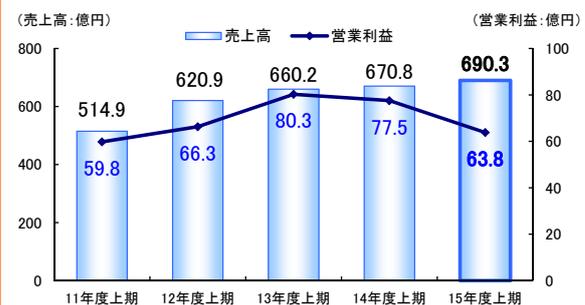
IVD

### 売上高、営業利益ともに過去最高を更新



CLT

### 売上高は過去最高、営業利益は価格下落により下降



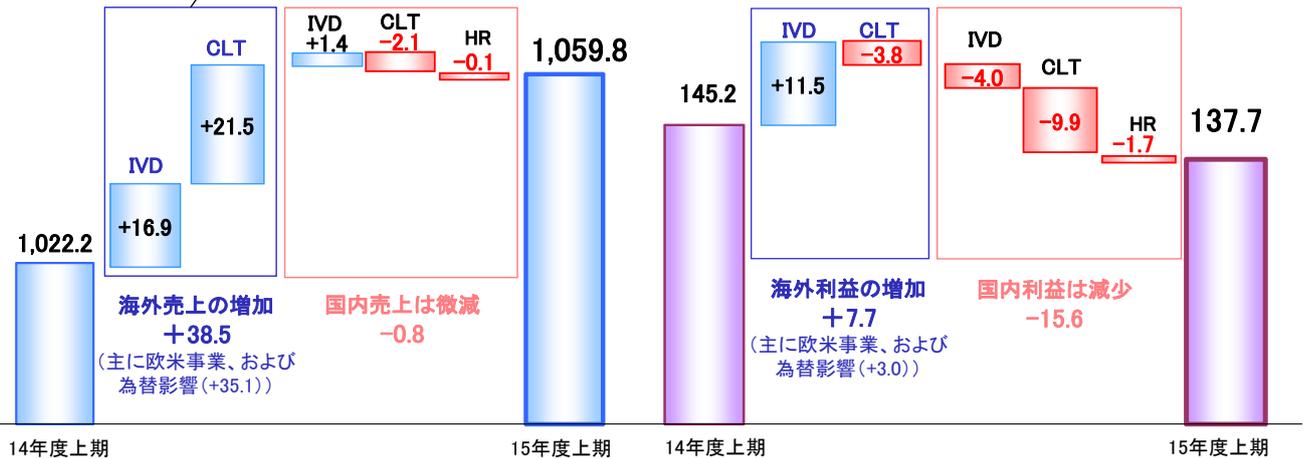
3

# 2015年度上期業績 対前年同期増減の主な要因

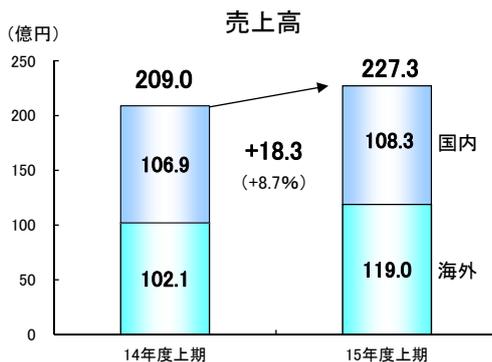
売上高 +37.6億円(+3.7%)、営業利益 -7.5億円(-5.1%)の増収減益

■売上高(連結) (単位:億円)

■営業利益(連結) (単位:億円)

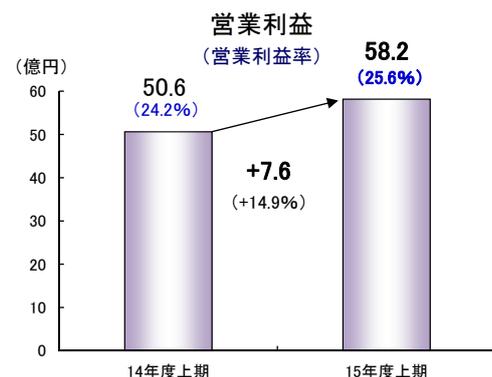


## 2015年度上期業績 1. IVD事業: 増収、増益



### ◆国内: 増収(+1.4億円)、減益(-4.0億円)

- ◇製品売上が堅調に推移
  - ・ LP試薬が伸長
  - ・ 低収益な非LP製品の売上減
- ◇海外展開に伴う費用増
  - ・ LP海外上市に向けたR&D費用の増加

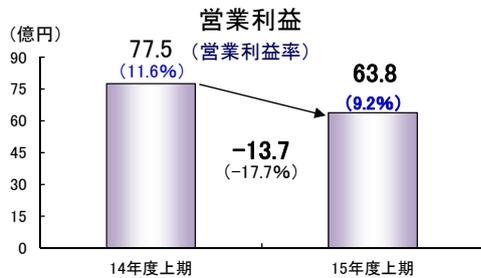
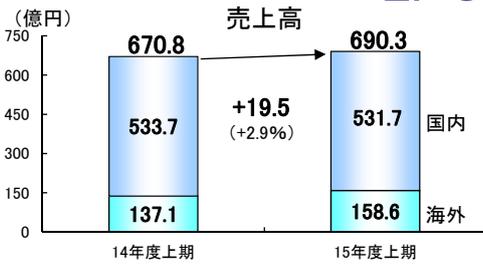


### ◆海外: 増収(+16.9億円)、増益(+11.5億円)

- ◇増収
  - ・ 原材料供給及びLPビジネスが伸長
  - ・ 一過性のロイヤリティ収入
  - ・ 為替影響: 11億円
- ◇増益
  - ・ 売上増に伴う利益増: 5億円
  - ・ 為替影響: 4億円
  - ・ その他: ロイヤリティ収入による利益増等

## 2015年度上期業績

### 2. CLT事業：増収、減益



#### ◆国内：微減収(-2.1億円)、減益(-9.9億円)

##### ◇売上高：

稼働日数を考慮するとほぼ前年並み

- ・主に新規の高単価検査が伸長
- ・価格下落の影響：約-3%

##### ◇営業利益：

- ・価格下落に伴う限界利益減
- ・新規項目導入に伴う先行投資

#### ◆海外：増収(+21.5億円)、減益(-3.8億円)

・為替影響による増収：+25億円

#### 【MLS現地通貨ベース(のれん償却前)】

##### ◇売上高：-\$2.8M

・主にGIの項目ミックスの変化及び価格下落による

平均単価の下落：-\$7.0M

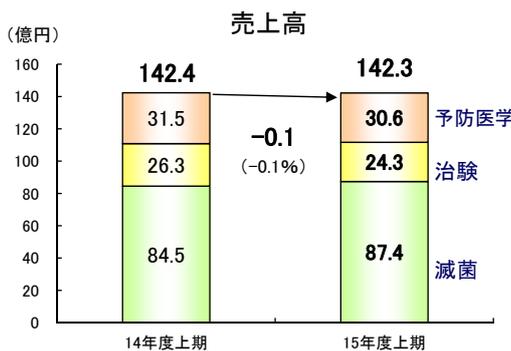
・業務量増(Derm成長が牽引)：+\$4.6M

##### ◇営業利益：-\$2.5M

・項目/分野ミックス及び価格下落による限界利益減

## 2015年度上期業績

### 3. HR事業：微減収、減益



#### ◆滅菌事業：売上高 +2.9億円、営業利益 +1.0億円

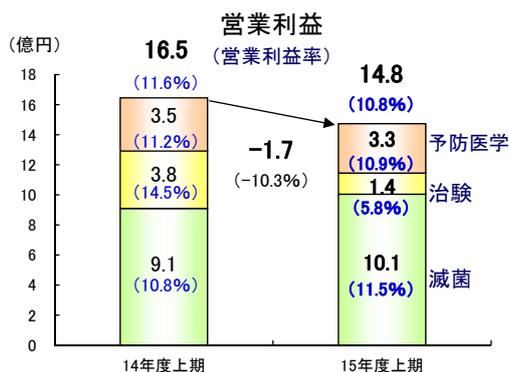
・新規施設獲得により増収、増益

#### ◆治験事業：売上高 -2.1億円、営業利益 -2.4億円

・単価下落による収益性の低下

・治験の規模が小型化(対象疾病分野の変化)

・当面の売上規模に見合った経費構造の転換に着手

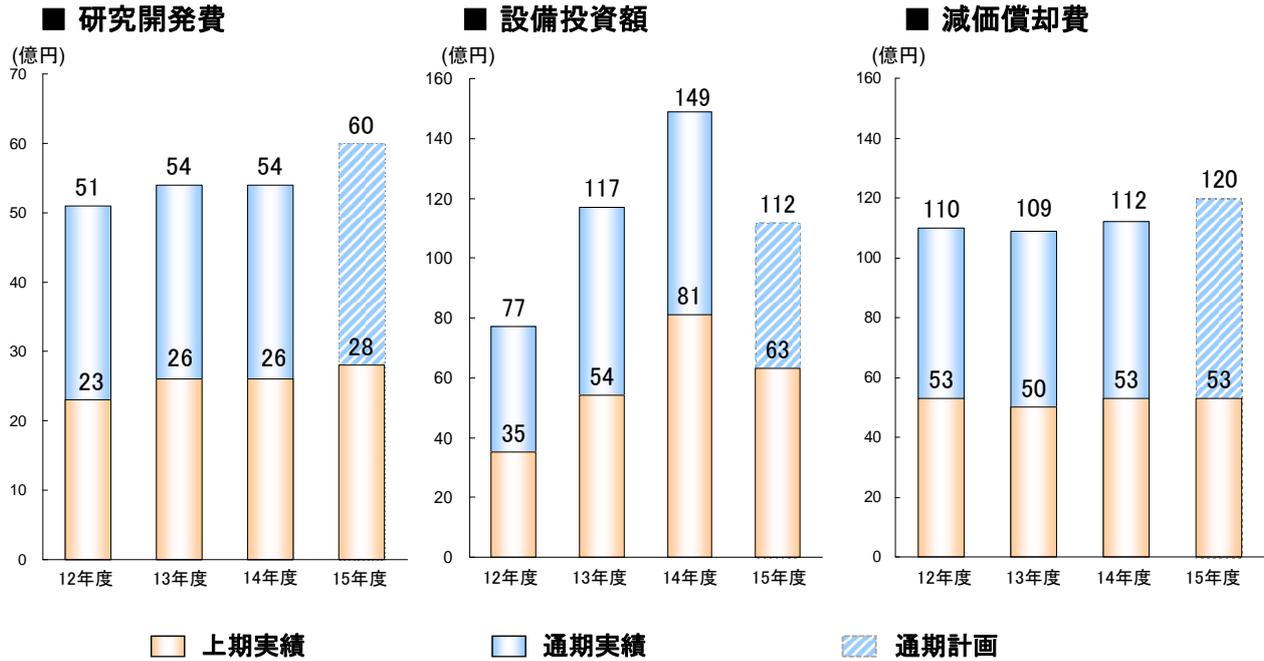


#### ◆予防医学関連：売上高 -0.9億円、営業利益 -0.2億円

・介護事業：安定的な売上成長を実現

・前年上期の健診事業の売上分が減少

## 研究開発費/設備投資額の推移(連結)



**15年度のポイント**

- ・研究開発費はLPの海外上市に向けた開発費が増加
- ・ナピラボ開発遅延に伴う投資額の増加、減価償却費の発現遅れ

※通期計画は最新の見通しに修正

## 連結貸借対照表の概況

(単位:億円)

2015年3月末		2015年9月末	
流動資産 901	流動負債 429	流動資産 907	流動負債 388
固定資産 1,721	固定負債 475	固定資産 1,740	固定負債 495
純資産合計 1,719 〔うち自己株式 △12〕		純資産合計 1,764 〔うち自己株式 △12〕	
自己資本比率 65.5%		自己資本比率 66.6%	

### 主な増減要因

- 固定資産
  - ・のれん償却 △22
  - ・顧客関連無形資産償却 △11
  - ・無形固定資産-その他 +26
  - ・投資その他の資産-その他 +42
- 固定負債
  - ・長期借入金減少 △29
  - ・上記以外(訴訟関連引当金を含む) +49
- 純資産
  - ・当期純利益 +65
  - ・剰余金の配当 △26

2015年3月末  
総資産 2,622億円

2015年9月末  
総資産 2,647億円  
(対前期末 +25億円)

有利子負債は 29億円の減少  
⇒ ネットキャッシュは 61億円

## 連結キャッシュフローの概況

### ■連結キャッシュ・フロー

(億円)

	14年度上期	15年度上期
税引前当期純利益	135	147
減価償却費	53	53
法人税等の支払額	-44	-30
その他営業CF	2	-12
<b>営業CF</b>	<b>147</b>	<b>157</b>
固定資産の取得	-69	-61
その他投資CF	2	-0
<b>投資CF</b>	<b>-67</b>	<b>-62</b>
<b>FCF</b>	<b>80</b>	<b>96</b>
<b>財務活動CF</b>	<b>-49</b>	<b>-56</b>
現金同等物換算差額	1	1
増 減	32	41
現金同等物 期首残高	357	273
現金同等物 残高	389	314

#### 主な増減要因

営業CF, 投資CF

→前年同期と同水準

財務CF

→借入金返済、配当金の支払等

→前年同期と同水準

⇒ 現金同等物は、14年度期末より  
41億円の増加

10

## 2015年度 通期見通しと 経営課題の進捗状況

11

	通期修正予想	通期 期首予想	通期修正予想 対期首予想比較	通期 前年度実績	通期修正予想 対前年比較
<b>売上高</b>	<b>2,100</b>	<b>2,100.0</b>	-	<b>2,046.7</b>	+53.3 +2.6%
臨床検査薬	463	456.5	+6.5 +1.4%	434.6	+28.4 +6.5%
受託臨床検査	1,356	1,360.0	-4.0 -0.3%	1,328.5	+27.5 +2.1%
ヘルスケア関連	281	283.5	-2.5 -0.9%	283.6	-2.6 -0.9%
<b>営業利益 (率)</b>	<b>257 12.2%</b>	<b>277.0 13.2%</b>	-20.0 -7.2%	<b>270.1 13.2%</b>	-13.1 -4.9%
臨床検査薬	109 23.5%	107.0 23.4%	+2.0 +1.9%	104.2 24.0%	+4.8 +4.6%
受託臨床検査	120 8.8%	138.5 10.2%	-18.5 -13.4%	134.9 10.2%	-14.9 -11.0%
ヘルスケア関連	28 10.0%	31.5 11.1%	-3.5 -11.1%	29.3 10.3%	-1.3 -4.5%
<b>経常利益 (率)</b>	<b>245 11.7%</b>	<b>269.5 12.8%</b>	-24.5 -9.1%	<b>265.7 13.0%</b>	-20.7 -7.8%
<b>当期純利益 (率)</b>	<b>149 7.1%</b>	<b>169.0 8.0%</b>	-20.0 -11.8%	<b>160.0 7.8%</b>	-11.0 -6.9%

### 【業績予想の修正要因】

#### ●国内CLT:

- ・売上高はほぼ想定通り
- ・価格下落及び項目ミックスの影響で限界利益減少
- ・ナビラボ稼働の遅延
  - ①稼働に伴う関連費用の減少
  - ②当期中の合理化効果は見込まれない
  - ③既存システムの並行稼働費用が継続

#### ●海外CLT

- ・業務量は増加
- ・高収益分野(GI)の売上及び利益率が低下
- 治験事業
  - ・価格下落等により売上を大幅に下方修正

12

## 経営課題の進捗状況

### IVD事業

上期

下期~

海外LP ・地理的 拡大	欧州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略項目の評価・認知度向上 → 機台設置、試薬販売の拡大 →</li> <li>・ G600II(小型機)のニッチ市場へのアプローチ →</li> </ul>
	アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国:PIVKA II、KL-6の深耕 → 順次保点承認の申請・承認獲得 →</li> <li>・ 韓国:複数代理店と提携 →</li> </ul>
	米国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G1200およびCA125のFDA承認取得 → 追加項目を順次申請 →</li> <li>・ 販売組織の立ち上げ → 販売活動の開始</li> </ul>
国内LP ・市場 シェア 拡大	試薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略項目:肝炎市場の深耕等 (高感度HBsAg、HBsAb、HBcAb) →</li> <li>・ 新規項目の発売 (L-FABP) → 継続的に新規項目を上市 →</li> </ul>
	機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ L2400上市 →</li> </ul>

海外の機器設置は、ほぼ計画通りのペースで進捗  
(当上期末で累計300台超)

13

## 経営課題の進捗状況

# IVD事業： ルミパルス®L2400の発売

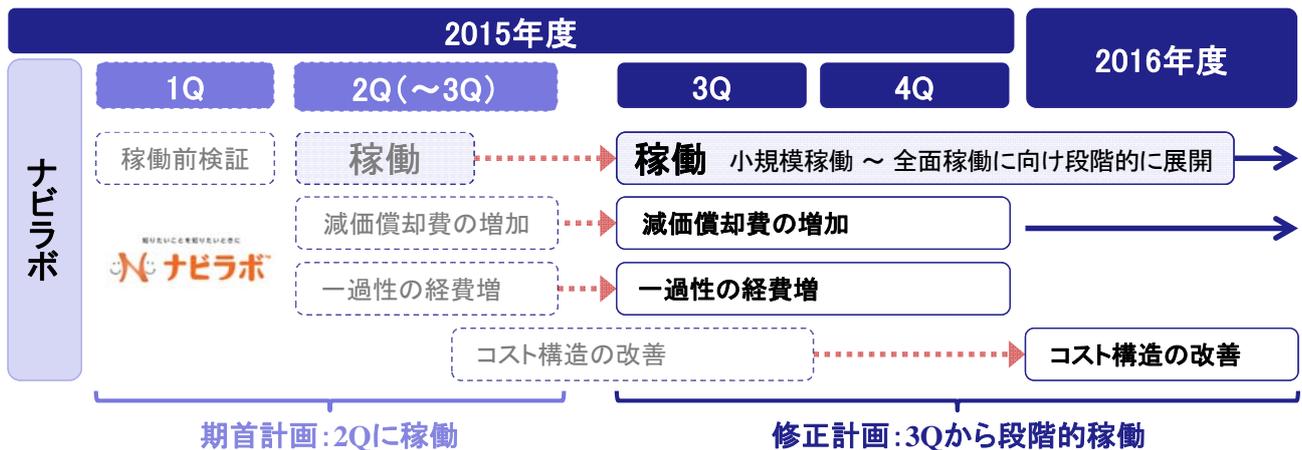


- 新型のハイスループット全自動免疫測定装置（240テスト/時間）
- 生化学自動分析装置BioMajesty™ ZERO JCA-ZS050（日本電子株式会社）との連結機として展開が可能
- グローバル展開を前提とした設計
- 従来のルミパルス プレストII 試薬を搭載（約50項目）
- 省スペース化
- ユーザビリティの改善

11月2日より日本で発売開始

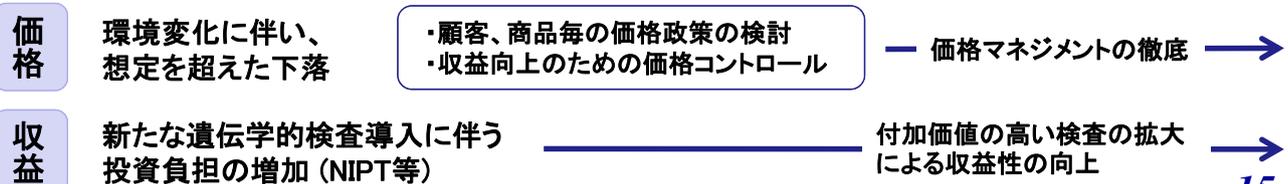
## 経営課題の進捗状況

# CLT国内事業



### ■ナビラボ稼働延期の要因

- システムはほぼ完成 ⇒ 円滑に移行するために個別顧客との追加対応・調整が必要
- 本格稼働の延期に伴い、合理化効果は2016年度以降に発現



## 経営課題の進捗状況

### CLT海外事業

#### (1) Miraca Life Sciences (米国病理検査事業)

	2015年度 期首通期予想	2015年度 上期実績	通期予想に対する 進捗
売上高	\$263.0M	\$130.2M	49.5%
営業利益	\$27.0M	\$10.9M	40.4%

売上高、営業利益ともに  
想定を下回る

#### 収益性低下の要因

- ◆ GI(売上の半分超): 収益性の低下
  - ・顧客平均単価の減少
    - 顧客の検査工程内製化(病理医部分)
    - 一部保険会社の償還価格下落
  - ・顧客喪失
    - POL\*による喪失
    - 病院ラボへの移行による喪失  
(病院による医師の囲い込み)
- ◆ GU:ITベンダーとの提携遅延による業務量減
- ◆ Heme: 価格下落の影響

#### 改善施策

- ◆ GI: 顧客リテンションと新規獲得の強化
- ◆ GU: ITベンダーとの提携による販売強化
- ◆ 収益構造の改善(FY16~)
  - ・ラボ施設のさらなる集約
  - ・新LISの導入
  - ・検査工程自動化の推進

下期の施策により一定の業績回復見通し

(\*) POL: Physician Office Laboratory

## 経営課題の進捗状況

### CLT海外事業

#### (2) BMGL (米国遺伝学的検査事業)

	2015年度 期首通期予想	2015年度 上期想定	2015年度 上期実績	上期想定に対する進捗	
売上高	\$68.0M	\$30.0M	\$25.2M	\$-4.8M	84.0%
EBITDA	\$13.0M	\$3.6M	\$-0.3M	\$-3.9M	-8.3%
持分法投資損益(*)	\$-5.0M	\$-4.2M	\$-6.5M	\$-2.3M	-

#### 上期未達の要因

- ◆ 小児遺伝性疾患分野
  - ・償還価格下落
  - ・競争環境激化による顧客喪失
- ◆ 産婦人科向けキャリアスクリーニングテスト
  - ・チャネルパートナーとの提携遅延  
⇒売上未達
  - ・検査プラットフォーム構築  
⇒先行投資によるコスト増

#### 改善施策

- ◆ 産婦人科向けキャリアスクリーニングテスト
  - ・チャネルパートナーによる拡販開始(10月)
  - ・下期の売上及び利益増を見込む
- ◆ 収益構造の改善
  - ・ラボオペレーションの効率化
- ◆ 自社営業力の強化
  - ・営業基盤整備(営業員の増強はほぼ完了)
- ◆ 新規項目の開発・市場導入を加速
  - ・Baylorの技術力を活かした新規項目開発

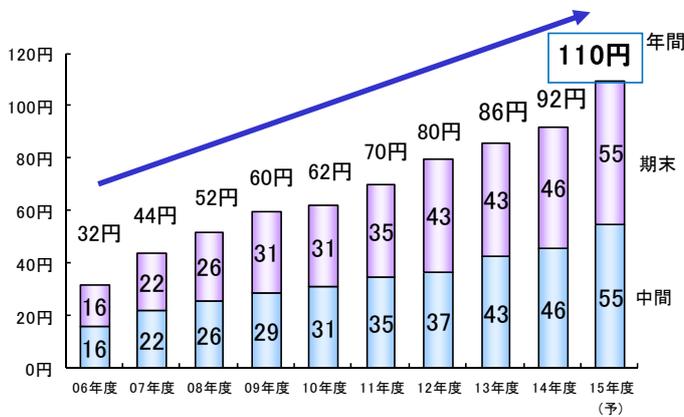
下期は売上、利益ともに改善するが、通期では期首予想より下振れ

(\*) 営業外損益に影響(みらか連結)

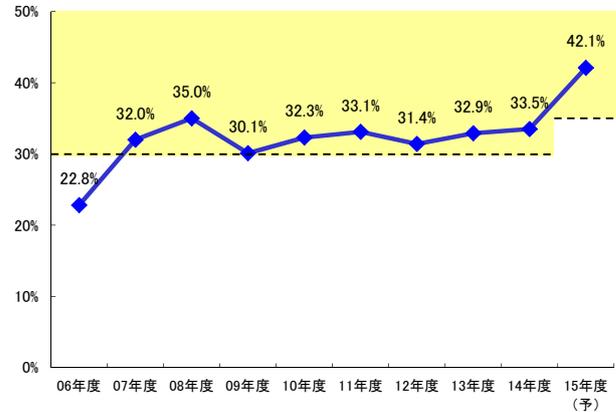
## 配当予想について

中間配当額は前年より9円増配。年間配当額は110円を予定。

■1株あたり配当金の推移



■配当性向の推移



## 連絡先：

みらかホールディングス株式会社

IR広報グループ TEL:03-5909-3337

### 将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。